

品川区いじめ根絶協議会（第1回）議事録

実施日時：平成28年7月8日午後2時から午後4時

会 場：教育文化会館 第一講習室

1 教育長挨拶

2 委員紹介

3 報 告①

<事務局より、「品川区いじめ防止対策推進条例」「品川区いじめ防止対策推進基本方針（案）」の説明>

4 報 告②

<事務局より、いじめ対策の成果と課題について説明>

5 協 議

テーマ『「つながり」をキーワードに、それぞれの立場でこれから必要と感ずること』

<グループ協議・協議内容の報告>（要旨）

【第1グループ・A委員】

子どもが町会へなかなかつながっていないのが現状だが、子どもが大きくなったらPTAや町会へ出てきてもらえるよう、長いスパンで考えることも必要。地域と連携すること、踏まえたうえで、学校は子どもたちにも町会や地域のことをきちんと教えて、自分の所属している町会のことを認識させることが必要だろう。まず、お互いに絆ができるようなシステムをつくっていくことが大事。

各校独自のいじめ根絶バッジを、学校の中だけでなく地域ぐるみで活用していけば良いのではないかと。

【第2グループ・B委員】

子どもたちに思いやりの心をもたせるためには、ボランティアの活用が有効ではないかと。高齢化が進んでいるなかで、子どものうちから進んでボランティア活動に参加をしてもらいたい。

親同士のつながりについての話題が出た。学校と家庭・学校と地域はつながることがあっても、親同士のつながりは薄くなっているのが現状。いじめ根絶バッジを上手く活用すると、つながりを強めることができるのではないかと。

コミュニティスクールについて、学校ごとで完結するのではなく、コミュニティスクール同士が連携して、つながりを広げていくことができるのではないかと。

【第3グループ・C委員】

不登校をなくしていくことが大事という意見がでた。不登校は、家庭の事情や友だちとのつながり、学校との関係など、様々な原因があり複合的な部分があるので、地域が学校と協力していく必要がある。

SNSについて、学校や家庭でのルールづくりが大切である。家庭ごとにルールを作っても、友だちとのつながりがあるなかで、なかなかルールを守ることができず、逆にいじめにつながってしまうかもしれない。

学校と親の縦のつながりはあっても、親同士のつながりが希薄になっているのではないかと。解決策の一つとして、保護者会の後で親同士がつながれるような機会を作っていけば良いという意見が出た。また、親が集まる機会をとおして、地域の方ともふれあう時間を作れば良い。大人同士のつながりを作っていくことが、いじめの解決につながっていくのではないかと。

【第4グループ・D委員】

現状と今後の課題について、それぞれの立場で話し合った。

地域の方は普段から学校行事に参加したり、地域のイベントに子どもたちを参加させたりしている。イベントには教員や親も参加し、上の学年がボランティアとして関わることもあり、縦のつながりがある。地域の方は情報をもっているため、学校も普段から民生委員、児童委員との関係を密にしている。地域健全育成協議会が学校・保護者・地域の方が顔を合わせる良い機会になっている。関係機関同士でも、配慮が必要な子どもの情報提供を普段からしているため、いざというときには連携して対応することができる。

今後は、普段の子どもの様子をよく見ていくことが大事である。普段の様子が分かっているならば、異常があったときにすぐに気付くことができるため、普段のつながりを大切にしていけることが重要だろう。

【委員長】

各グループの発表をしていただいた。学校と家庭のつながりが大きいと思われるが、地域や関係機関とのつながりをどうしたら増やせるか。地域の集会所を活用するなど、コミュニティスクールと結びつけることが考えられる。交番と子どもと一緒に地域の防犯をして、商店街や町会の方も参加できるようにすれば、つながっていくのではないかと。いじめ根絶バッジについて子どもが親や地域の方に説明するようにするなど、多くの方に知ってもらうアクションをしていけば良いのではないかと。

6 事務連絡

<事務局より今後のスケジュールについて、次回は平成28年11月25日に開催予定>

7 閉会